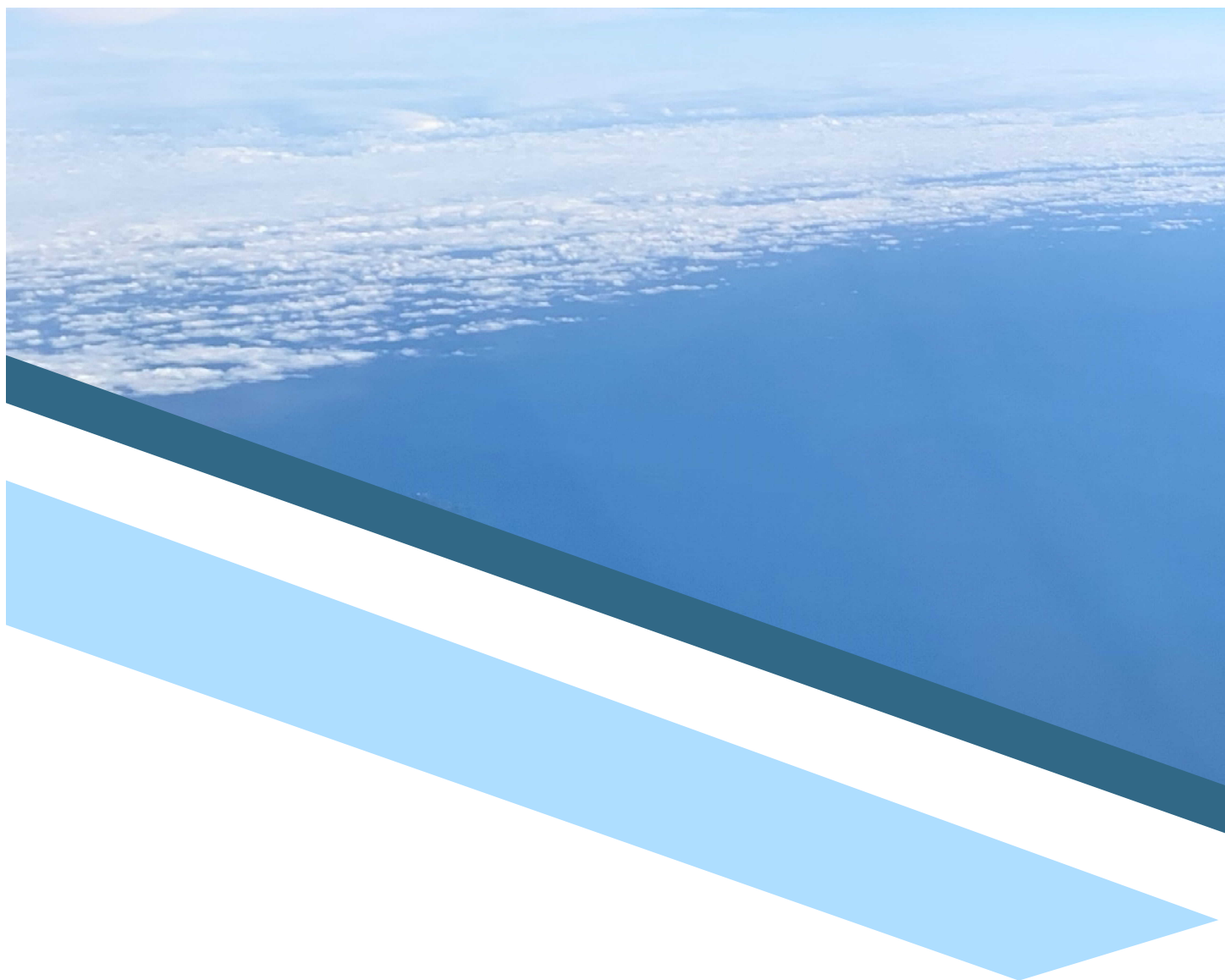




鹿屋航空基地における 米軍無人機MQ-9の 一時展開について



防衛省・自衛隊
MINISTRY OF DEFENSE

余白

はじめに

鹿屋航空基地への米軍無人機MQ-9の一時展開について、住民の皆様は様々な疑問をお持ちのことと思います。

防衛省は、それらの疑問にお答えするため、住民の皆様にしかりと情報をお届けすることが重要であると考えています。そのため、一時展開の内容、MQ-9の運用、米軍関係者の生活や行動、地域コミュニティとの連携を中心に、Q & Aの形で、防衛省の考えをまとめました。

今後も、地元の皆様のより多くのご協力が得られるよう、このような取り組みも含めて、ご説明を積み重ねる努力をしてまいります。

※本資料は、令和4年（2022年）6月現在の検討状況を取りまとめたものです。

目次

■ 一時展開の内容について	・・・ 4
■ MQ-9の運用について	・・・ 8
■ 米軍関係者の生活や行動について	・・・ 12
■ 地域コミュニティとの連携について	・・・ 15

一時展開の内容について

Q

なぜ、鹿屋航空基地をMQ-9の一時展開先として選んだのですか。

- ① 東シナ海を中心とした、我が国周辺での情報収集活動を行いやすい位置にある
- ② 情報収集活動において、米軍と自衛隊との連携を強化できる
- ③ MQ-9の運用に必要なインフラ(※)が確保できる

との理由から、MQ-9の一時展開先として鹿屋航空基地を選びました。

※ MQ-9の運用に適した滑走路や格納庫がある、MQ-9の操縦に必要な装置を置くことが出来る、米軍関係者の生活を支えるホテルや食事が確保できる、等

Q

一時展開の期間はどれくらいですか。また、その期間は、いづれ延長されるのではないですか。

一時展開の期間は、運用開始から1年間です。7月以降、準備が整い次第、運用を開始したいと考えています。

この1年間という期間については、日米間でしっかりと確認しており、変更する予定はありません。

MQ-9の運用は、必要な準備が整い次第、できるだけ早く開始したいと考えています。

一時展開の内容について

Q

情報収集活動は、1年間で終わるものではなく、その後もずっと続けるものだと思いますが、今回の展開期間が1年間に限定されているのはなぜですか。

情報収集活動を強化することが非常に重要になっている中、我が国独自の取組も含め、米軍MQ-9の一時展開以外の様々な取組を進めていきます。

情報収集活動は、MQ-9単独で行うものではなく、自衛隊と米軍の様々な装備品を活用して行うものです。

自衛隊も、鹿屋航空基地にも配備されているP-1哨戒機などの装備品によって日々情報収集活動を行っています。また、航空自衛隊がグローバル・ホークの運用を開始し、海上自衛隊が滞空型無人機の試験的運用の準備を進めるなど、日本独自の情報収集能力の強化も進めています。

こうした取組を日米が進めることによって、日米同盟全体としての情報収集能力を強化していくこととしています。

(参考) 日本国内における無人機

海保：八戸での飛行実証



MQ-9B シーガーディアン
2020年10月～11月 1機

- ・飛行実証を通じ、無操縦者航空機を活用することで、より効果的・効率的に海洋監視を遂行できるとの結論。
- ・十分な安全性も確認。
- ・海自・八戸航空基地を拠点として令和4年度の運用開始を目指す。

自衛隊：三沢への配備



RQ-4 グローバル・ホーク
2022年3月以降順次配備 3機

米軍：三沢への展開



MQ-4 トライトン
2021年5月～10月 2機 約70名



RQ-4 グローバル・ホーク
2014年5月～10月 2機 約40名
2015年7月～12月 4機 約70名
2018年6月～10月 6機 約40名

香岐での飛行実証



ガーディアン
2018年5月 1機

【香岐】

【横田】

米軍：横田への展開



RQ-4 グローバル・ホーク
2017年5月～10月 5機 約110名
2019年8月～10月 4機 約80名
2020年7月～9月 6機 約80名
2021年5月～10月 6機 約80～100名

一時展開の内容について

Q

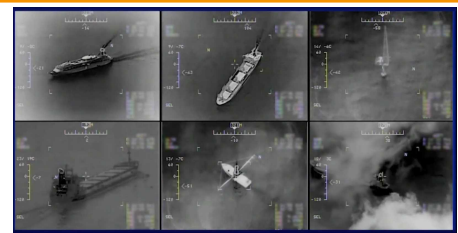
情報収集用の機体とのことですが、武器を持たせることもできると聞きました。攻撃用に転用することはありませんか。

情報収集用の仕様であり、**武器は搭載できず、攻撃用に使用できません。**

鹿屋航空基地に一時展開するMQ-9は、情報収集用に仕様が変更されているため、武器を搭載することはできません。武器を持てるように仕様を変更させることは時間がかかるので、鹿屋航空基地にいる間にそのような仕様の変更はできないことを、米側にも確認しています。

(参考) MQ-9の能力

- ・ 各種高性能センサーを搭載
- ・ 夜間も含め、広範囲な海域における艦艇・船舶の所在を把握することが可能



MQ-9が収集できる情報の一例
(出典：General Atomics社HP)

Q

展開する米軍部隊の所属や、人数、MQ-9の機数などの部隊の規模はどうなりますか。

一時展開する機数は8機、人数は150人から200人程度です。

鹿屋航空基地に一時展開するMQ-9を運用する部隊は、米空軍に所属します。一時展開するMQ-9は8機で、150人から200人程度の米軍関係者が鹿屋に滞在します。なお、米軍関係者については、全員が一度に鹿屋に来るわけではなく、最初は一部の要員が鹿屋に入り、その後、全員が鹿屋に入ることになります。

なぜ、そんなに多くの機数が必要なのですか。

情報収集活動においては、我が国周辺の海域において、切れ目なく活動が続けることが重要です。そのためには、例えば、現場に向かっている機体、現場で情報収集活動を行う機体、現場から帰ってくる機体、基地で整備している機体など、複数の機体をセットとして運用する必要があります。

途中で機数が増えますか。

機体の故障などのやむを得ない場合を除き、一時展開期間中に8機よりも機数が増えることはありません。

一時展開の内容について

Q

鹿屋航空基地に一時展開した場合、鹿屋が攻撃対象になることはありませんか。

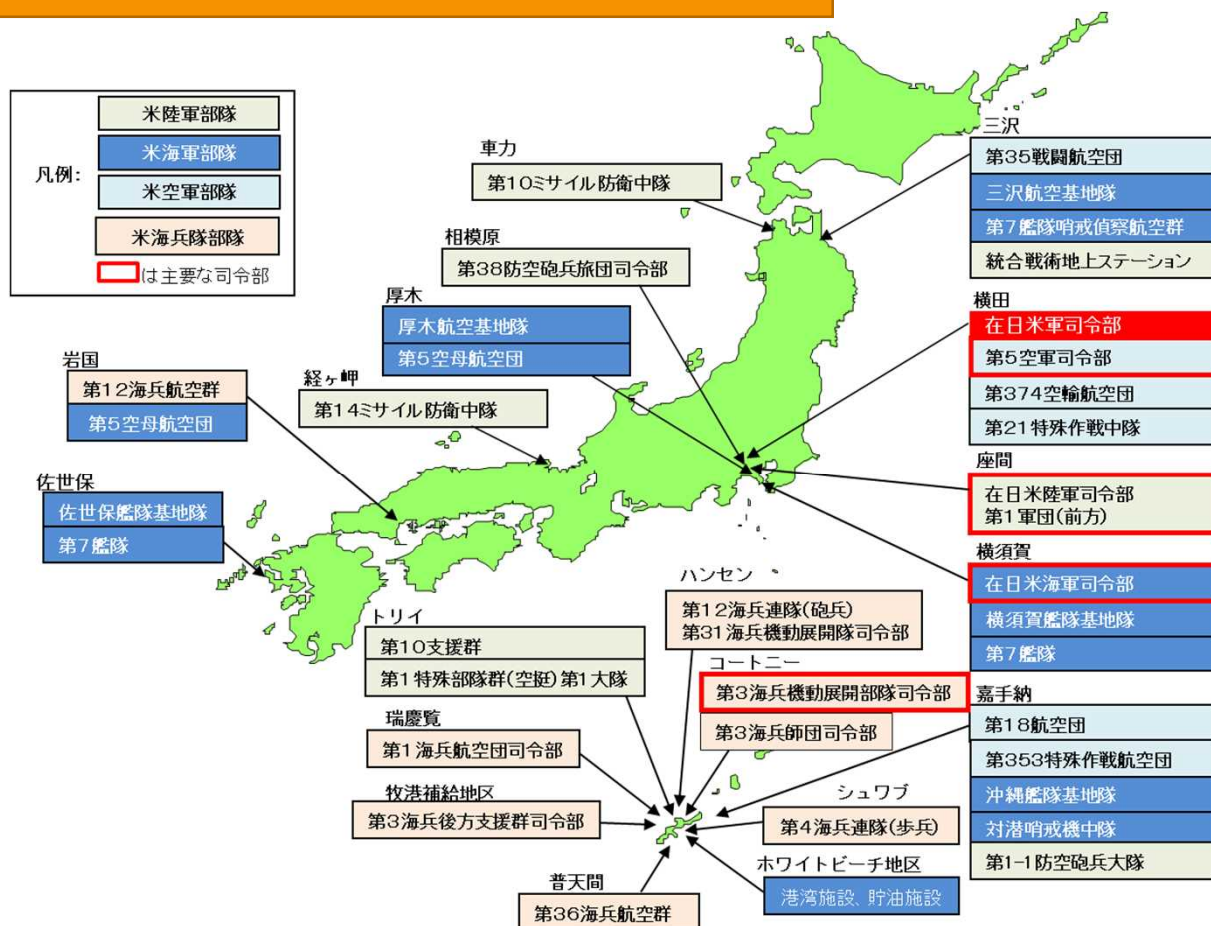
MQ-9による周辺国の艦艇・船舶などの動きを見逃さない活動は、**周辺国による我が国に対する挑発的な行動を抑制することにつながり、鹿屋航空基地を含めた我が国の平和と安全に寄与するものです。**

我が国に米軍が存在すること自体が、我が国への攻撃に対する防止・抑制になっています。

MQ-9が鹿屋航空基地に一時展開し、海上自衛隊と共に、周辺国の艦艇・船舶などの動きを見逃さないような態勢を強化できれば、周辺国による我が国に対する挑発的な行動や、現状変更を試みる行動を防止・抑制することにもつながります。

このように、MQ-9の鹿屋航空基地への一時展開は、鹿屋航空基地を含む我が国の平和と安全に寄与するものです。

我が国における在日米軍主要部隊などの展開状況



MQ-9の運用について

Q MQ-9は昼夜問わず飛行しますか。夜間も離発着を行いますか。

切れ目の無い情報収集活動を行うため、**夜間も飛行することがありますが、頻繁な離発着は想定していません。**

MQ-9は、東シナ海を中心とする、我が国周辺の海域において、複数の機体を連続的に運用することで、切れ目の無い情報収集活動を行います。そのため昼夜を問わず離発着する必要があります。このことは、警戒監視という重要な任務のために、海上自衛隊のP-1哨戒機が昼夜問わずに離発着を行っていることと同様です。

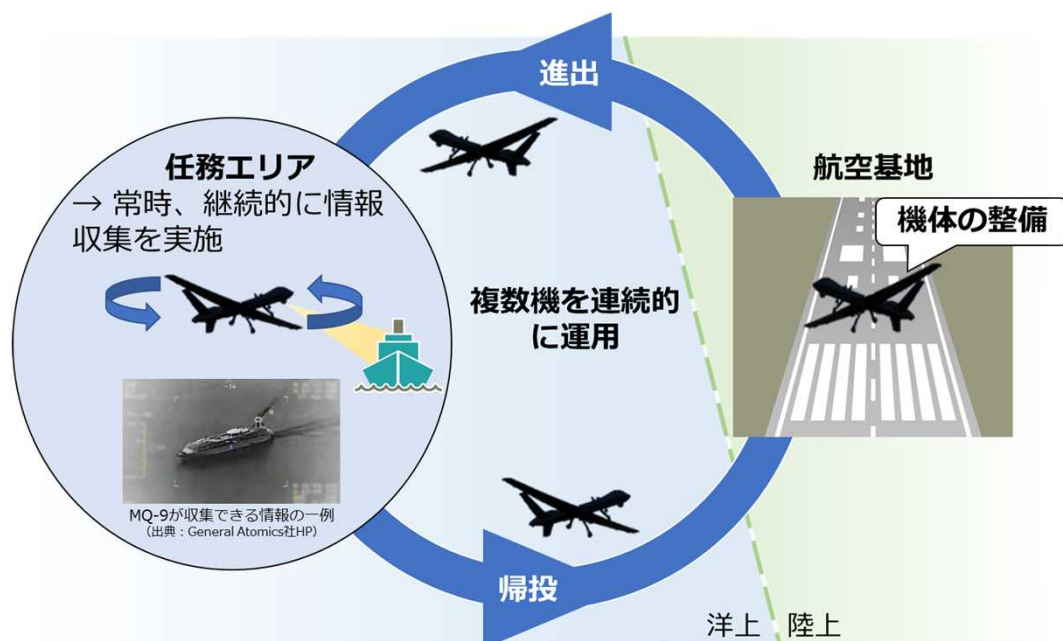
どれぐらいの頻度で夜間に運用しますか。

MQ-9のような無人機は、有人機と比べて、長時間にわたって継続的な情報収集ができるのが特徴です。そのため、昼夜を問わずに継続し続ける任務であっても、現場で情報収集活動を行う機体を頻繁に交代する必要はありません。

鹿屋航空基地における実際のMQ-9の離発着の具体的な回数は、その時々状況にもよりますが、例えば、夜間に複数機が繰り返し離着陸したり、同時に何機も飛び立つような頻繁な離発着は想定していません。

MQ-9の運用のイメージ

MQ-9は、我が国周辺での長時間の情報収集任務に従事するため、航空基地離陸後は速やかに任務エリアへ進出（航空基地周辺での飛行は基本的に離発着に伴うもの）



MQ-9の運用について

Q MQ-9はどこを飛行しますか。市街地上空を飛行しますか。

MQ-9の**基地周辺の飛行は、基本的に離着陸時**です。

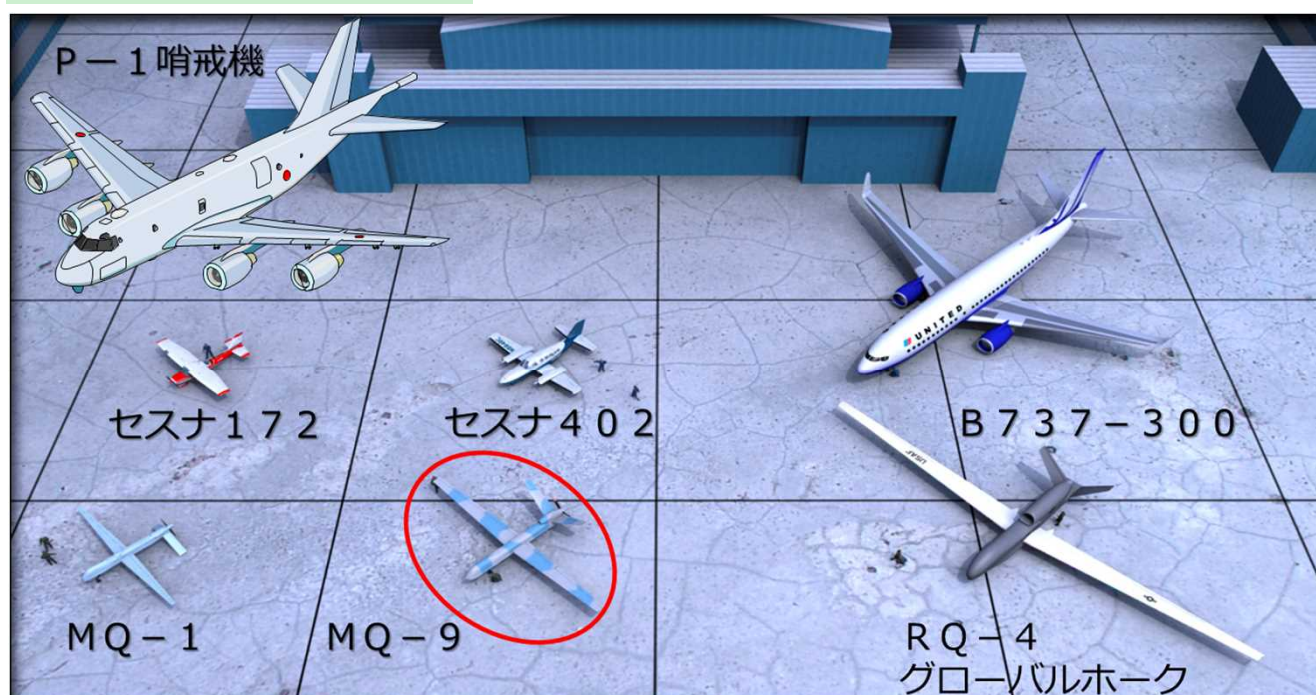
MQ-9は、我が国周辺での情報収集活動のため、離陸後すぐに任務エリアへ向かい、大半の時間を洋上で活動します。

Q MQ-9の騒音はどの程度ですか。今よりもうるさくなりますか。

鹿屋航空基地で運用している**P-1哨戒機や民間旅客機ボーイング737と比較すると、MQ-9の騒音は小さい**です。

MQ-9の搭載しているエンジンは、セスナ機と同等であり、エンジンの出力が大きくなる離陸時において、約120m上空を機体が飛行している時に、地上での騒音が最大75dB程度であり、これは、街路沿いの住宅街と同等程度の音です。

無人機のサイズ比較



MQ-9の運用について

Q MQ-9の飛行の安全性について教えてください。

MQ-9は安全を確保するため、**三重に及ぶフライトコントロールシステム（※）を保持**しています。

仮に一部のシステムが不調になっても、残りのシステムによって問題なく飛行を継続することが可能です。

また、MQ-9は、操縦を行う設備との通信についても、一つの接続が切れても切り替え可能な予備のシステムを兼ね備えているほか、万が一すべての接続が切れたとしても、自動操縦で事前にプログラムされた経路を飛行することが可能です。

更に、令和2年には、海上保安庁が、MQ-9の派生型であるMQ-9Bの飛行実証を行っており、1件の事故もなく、全13回・合計約147時間の飛行を実施しています。

MQ-9は、過去の事故・事案について、米軍の調査プロセスを経て、飛行運用を改善していると、米側は説明しています。また、米空軍のMQ-9において、これまで事故・事案に伴う死傷者は出ていません。

（※）フライトコントロールシステムとは、航空機にはたらく力や機体の姿勢を制御するための操縦システムのことを指し、航法装置やフライトコンピューターに加え、高度計や速度計といった飛行用の電子機器で構成されます。

MQ-9の概要

MQ-9は、米空軍が運用する多目的無人機

鹿屋航空基地への一時展開を検討している

MQ-9は、海洋における情報収集を行います。



運用速度：1時間に333km

航続距離：8,519km

滞空時間：32時間

最大高度：1万5,240m

大きさ：全幅20.12m、全長10.97m、全高3.81m

※B737旅客機、グローバル・ホーク、海上自衛隊P-1哨戒機と比べ半分程度

MQ-9の運用について

一時展開に伴い、恒久的な施設を作りますか。

MQ-9の一時展開に際して、運用に必要な一時的な施設の設置はあるものの、恒久的な施設は作りません。

鹿屋航空基地において米軍訓練が頻繁に行われ、基地使用が常態化するのではないですか。

今回のMQ-9の一時展開は、あくまでも運用開始から1年間に限られています。今回の一時展開によって、鹿屋航空基地における米軍の展開が常態化したり、更なる配備が進むわけではありません。

どのような場所で情報収集を行うのですか。

東シナ海を中心とする、我が国周辺の海域です。

情報収集はどのようなものを対象にしていますか。
どのような方法で収集しますか。

光学センサーや赤外線センサーに加え、昼夜や悪天候を問わずに観測可能なセンサーなど、様々な高性能センサーによって、情報収集を行います。

これらのセンサーにより、夜間も含め、広範囲な海域における艦艇・船舶の把握が可能です。また、乗員の甲板上での行動といった、不審な艦艇・船舶の活動の把握が可能です。



米軍関係者の生活や行動について

Q

米軍関係者は、基地の外に宿泊しますか。

鹿屋市内に宿泊することを考えています。

米軍関係者の宿泊先については、鹿屋市内の民間の宿泊施設に、何か所かに分散して宿泊することを想定しています。

宿泊先から基地への移動手段はどうなりますか。

米側が所有する車やレンタカー、公共交通機関などが考えられます。

Q

米軍関係者の勤務時間や休日など勤務体制は、どのようになりますか。

米軍関係者は、シフト制の下、24時間体制で勤務します。

MQ-9は情報収集のため、昼夜を問わず、平日も休日も24時間連続で運用されます。そのため、米軍関係者はシフト制を組んで勤務します。

Q

新型コロナウイルス対策は、どのように行いますか。

米軍関係者は、日本政府の水際措置を踏まえ、出国前の検査等を実施した上で、我が国に入国します。また、展開先においては、周辺自治体で取られている対策に沿った対応を取ります。

米軍関係者は、当然のことながら、施設・区域外において、周辺自治体が講じている措置に適切に従い、万全の感染症対策を行います。

米軍関係者の生活や行動について

Q

米軍関係者との国際交流の場を設けることはできますか。

地元の皆様のご要望も踏まえつつ、検討してまいります。

他の地域では、地元との交流を促進する取組事例として、米軍関係者が地域のお祭りやボランティア活動に参加しております。

米軍関係者の地域における取組事例



英会話交流



地元行事への参加



米軍軍楽隊による演奏会



ハロウィンイベント

米軍関係者の生活や行動について

Q

米軍関係者は、日本語が話せますか。日本の法律、風俗習慣や交通事情などを理解していますか。

日本の法律・習慣・交通事情などについて、事前にしっかり教育を受けます。

鹿屋航空基地に派遣される米軍関係者全てが日本語を話せるわけではありませんが、米側は、全ての米軍関係者に対し、日本の習慣や法律について教育を行います。

主な教育内容

- 地元の方々とトラブルになった際は警察に連絡すること
- 事故が発生した場合は110番・119番通報をするとともに救護義務を果たすこと
- 日本における飲酒運転は基地の内外に関わらず重罪であること
- 任意自動車保険に加入すること



(例) 在沖海兵隊が交通ルールの周知に用いている資料

Q

公務外における行動規制はありますか。また、公務外の行動はどのように把握しますか。

在日米軍が自主的措置として設けた勤務時間外の行動の指針に従って、米軍人は行動します。

鹿屋航空基地に派遣される米軍人は、公務外においては、他の在日米軍人と同じように、「在日米軍の勤務時間外行動の指針（リバティ制度）」に従います。

リバティ制度の概要

次の内容が、日本国内に所在し活動している全ての軍人に適用されます。

- ① 事前研修（日本についての教育、責任ある飲酒に関する研修等）
- ② 米軍施設・区域外の公共の場における飲酒制限
- ③ 外出時間制限
- ④ 外出時の同伴者（リバティ・バディ）義務づけ

地域コミュニティとの連携について

Q

公務外での飲食や、車の運転など、基地外で行動する際に、仮に市民とのトラブル、事件や事故が発生した場合、だれが、どのように対応しますか。また、防衛省の連絡体制はどのようなになりますか。

防衛省として、地元と連携し、現場での速やかな調整・対応ができるよう、**鹿屋航空基地内に現地連絡所を設置し、通訳要員を含めた職員を配置**します。

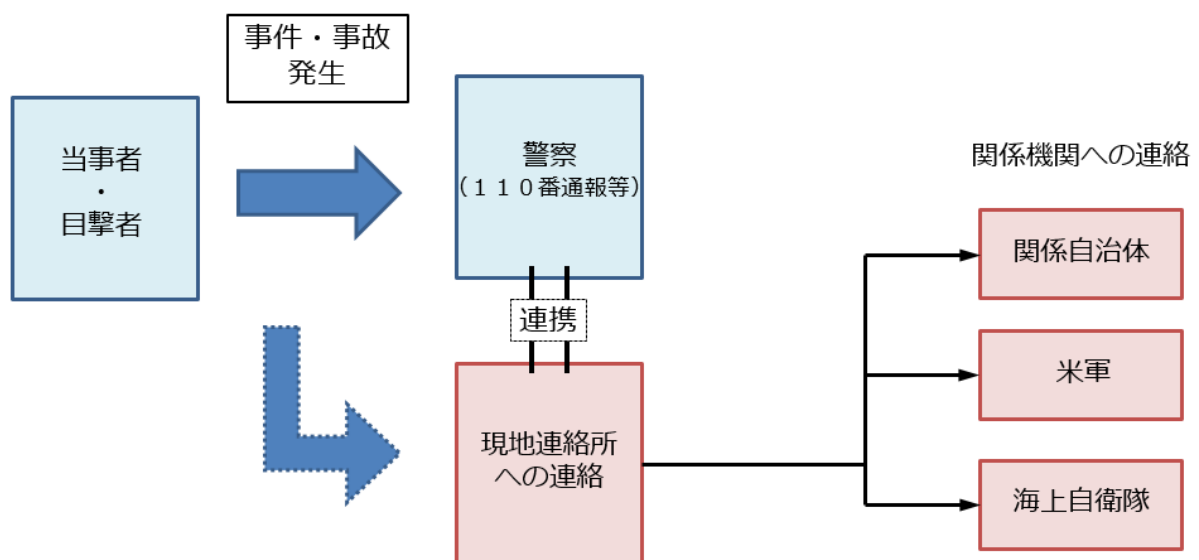
米軍関係者との事件・事故に遭われた方又は目撃された方は、**一般の事件・事故と同様にまずは警察に通報して下さい。現地連絡所においても、警察や関係自治体等とも連携し、適切に対応してまいります。**

また、**お困り事やご不安な点があれば、お気軽に（なんなりと）現地連絡所にご相談ください。**

例えば、飲食店などで米軍関係者との間にトラブルが発生した場合や米軍関係者との交通事故が発生した場合などに備えて、24時間電話連絡がとれる体制をとり、しっかりと対応していきたいと考えています。

休日・夜間も対応いたしますので、連絡先について、後日お知らせいたします。

事件・事故が発生した場合の連絡の流れ（イメージ）



地域コミュニティとの連携について

Q

米軍関係者は、事件・事故が起こっても日米地位協定により日本の警察が介入できなかったり、裁けないのではありませんか？

公務外の米軍関係者による事件・事故については、**日本側による必要な捜査や裁判を行います。**

米軍関係者による事件・事故に際しては、日米地位協定等の規定に基づき、日米間で協力して取り組んできています。具体的には、日米地位協定は、日米の当局が犯罪の捜査において相互に援助すること、日米間で裁判権が競合する場合の裁判権の分配等について規定しています。

米軍関係者が事件・事故を起こした場合は、日本側の当局が、関係法令に基づき、米側当局と協力しつつ、必要な捜査等を実施します。裁判権についても、米軍関係者が公務外で罪を犯した場合は、日本側が裁判を行い、罰金の支払や服役をしてきています。

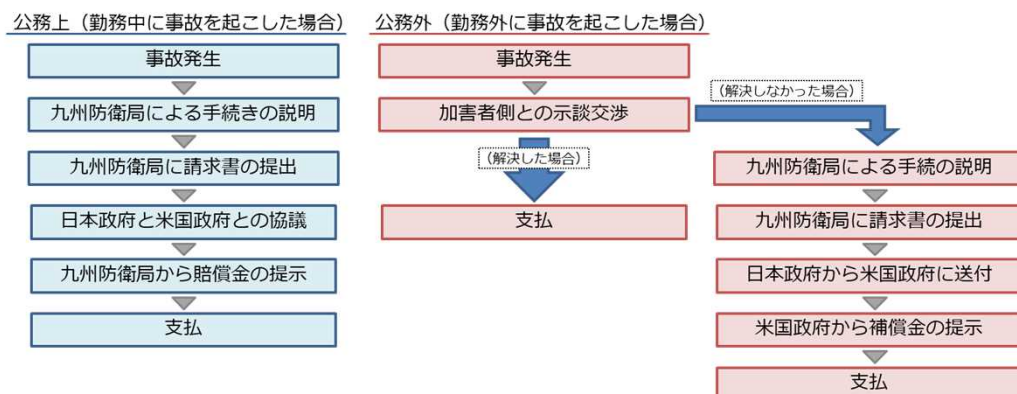
なお、米軍関係者が公務外で罪を犯し、日本の警察が現行犯逮捕等を行ったときは、その身柄は日本側が確保し続けます。また、その者の身柄が米側にあるときは、日本側で公訴が提起されるまで、米側が拘禁を行うこととされています。

Q

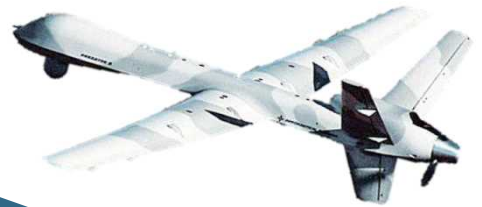
市民等に被害が生じた場合、日米はどのように補償しますか。

米軍関係者による事件・事故は、被害者はもとより、地域の方々に不安を与える、あってはならないものであると認識していますが、**万が一、地元の方に被害が生じた場合については、日米地位協定第18条の規定に従い適切に対応してまいります。**

米軍による交通事故発生から補償までの主な流れ



余白



お問い合わせ先

・九州防衛局

(電話) 092-483-8820 (基地対策室)

(FAX) 092-476-1927

(住所) 〒812-0013

福岡市博多区博多駅東2-10-7
福岡第2合同庁舎

※本資料は、令和4年（2022年）6月時点での検討状況をと
りまとめたものです。